[illegible]集

雑之五

巻六八

和書門 類
二七七五 號
六 函
一 架
三六 冊

内閣文庫
和書 類
二七七五 號
三六 冊
二〇一 函
二 架

内閣文庫		
番號	和 27075	
冊數	36 (28)	
函號	201	14

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

colorchecker

x·rite

MSCCPPCC1214

MSCCPPPE1214

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

類題和歌集巻廿八目録

雜部

鳥
寄鳥雜
一濱雲鳥
澗戸鳥[illegible]
林鳥
暮林鳥
暮鳥宿來
暮林鳥宿
瀧邊鳥
河鳥
河邊鳥
海路鳥
水之鳥
鷺
山路鶴
晴天鶴
曉之鶴
夜鶴
鶴声近
雲居鶴
澤鶴
澤畔鶴
鶴鳴皐
夜鶴鳴皐
鶴帰皐
池上鷺
江上見鶴
海邊鶴
海邊見鶴
海邊冬鶴
湖邊鶴
浦鶴
浦鶴鳴月
鳴鶴
洲鶴
鶴立洲
群鶴立洲
水之鶴鳴
田家見鷺
遊鶴

庭上鶴　鶴庭上来　庭上鶴列　鶴列砌
葦間鶴　鶴宿松樹　鶴棲松上風　鶴宿松
鶴夢近枕　鶴齢譲君　仙洞鶴多　鶴伴仙齢
鶴避年友　鶴千年友　鶴契齢　鶴老契齢
鶴老争齢　対鶴争齢　鶴有遐齢　鶴契遐年
鶴契千年　鶴全千年寿　名所鶴　鷹
鷲　原鷹　原上鷹　鵝尾
鶏　鶏告暁　鶏告暁天　暁天鶏
暁天聞鶏　暁鶏　暁更鶏　関鶏
関路鶏　関路歩鶏　鶏鳴過関路　水口歩鶏
社頭鶏　社鶏声　隣里鶏　遠村鶏
隣家鶏　隣家鶏　遠宿鶏　寝覚鶏

社頭鳥　都鳥　城鳥　鴫
竹裏雀　鴎　汀鴎　鴎浮水
鴇　鷺　白鷺飛　夜中鷺
江邊鷺　江夜鷺飛　白鷺立江　河鷺
河邊鷺　白鷺立河　汀鷺　白鷺立汀
洲鷺　白鷺立洲　洲邊鷺　入江鷺
獣　原獣　虎　熊
馬　駿馬　牧馬　野馬夜嘶
黒牛　犬　猪　羊
猿　故山猿　古山呼猿　猿呼山峡
峡猿　猿叫峡　暁猿呼峡　嶺樹猿
嶺林猿叫　樹頭猿　梢猿　鹿

蜘蛛　蝙蝠　蝸牛　亀
池亀　淵上亀　渕亀　亀万年友
万亀争齢　貝　拾貝　伶調
酒　藥　書　文書
文詞　詞　陪　硯
筆　太刀　刀　弓
翁　沓　勝形　扶
蹴鞠　囲碁　雙六　蓑
唐衣　盃　管絃　和琴
箏　琴調　松風調琴　笛
笛音　藤笛吹月　行路吹笛　竹村笛
鼓　舎　曽　上陸宝物

玉　鏡　倍葉　梵
枕　枕塵　筵　簾
拂　鬘　荃簀　火取
香　反魂香　拂　志折
衣　襲文衣　裳　袴
袋　扇　帯　玉帯
紗　布　綵布　綾
綿　糸　機　梭
斤　車　小車　水車
樋　舟　筏　織
碇　綱　網　川網
魚梁　梁　撥麻　撞

暁鐘
暁更鐘
暁天夕鐘
暁鐘声幽
晩鐘
晩鐘声
晩鐘何方
夕鐘
隣寺鐘
隣寺遠鐘
疎鐘
遠鐘幽
鐘声幽
鐘声何方
山晩鐘
暮山鐘
暮山鐘遠
野亭鐘
駅亭夕鐘
旅路夕鐘
寝覚夕鐘
灯
雨中灯
夜燈
深夜燈
夜燈思花
暁燈欲消
暁更残灯
書灯欲暁
窓中灯
窓灯
窓灯欲消
窓灯殆盡
独寝挑灯坐
船
列舟
舟路
舟路遠
遊舟暮帰
行舟夜已深
江舟
江上舟
江列舟
河舟
河上舟
湊舟
海路舟
湖上舟

湖水舟
舟浮湖水
浦舟
泊舟
渡舟
古渡舟
岸頭待舟
水上舟
舟過芦間
舟過芦洲
舟中夢覚
遠浦帰帆
遠帆連浪
河筏
秋川筏
河筏多
釣
釣魚
釣舟
漁舟火
漁舟連浪
遠望漁舟
暁見漁舟
暮漁舟
葦隔漁火
漁火連浪
眺望
雨後眺望
雪中眺望
雪朝眺望
朝眺望
夕眺望
眺望日暮
霧夕眺望
山眺望
遠山眺望
山路眺望
峯眺望
楼眺望
里部眺望
杜眺望
野眺望
路径眺望
野外眺望
関眺望
橋眺望
水辺眺望
沢眺望

江上眺望　江亭眺望　瀧眺望　河眺望
川邊眺望　湊眺望　海眺望　海上眺望
海邊眺望　海畔眺望　海路眺望　湖眺望
湖水眺望　湖上眺望　浦眺望　濱眺望
灣眺望　遠灣眺望　泊眺望　遠近眺望
水邊眺望　村眺望　里眺望　古寺眺望
山家眺望　山居眺望　田家眺望　旅眺望
霧中眺望　名所眺望　雲遠望　雲間遠望
晴後遠望　朝遠望　薄暮遠望　山遠望
海上遠望　江上遠望　夕遠望　海邊望
海上夕望　海邊夕望　海路曉望　望遠帆
山居夕望

類題和歌集巻第廿八

雜部五

鳥

新續古　かきくらき桐のこすゑにすむ鳥の名わかれは世のうきこさ　按察使公保

あくるまを待くさとちの村すゝめ竹やまにひくらん　雅世

此すぬかこゝろのはれまをもひとつにわたる芦田鶴の声　同

寄鳥雜

一溪雲鳥

玉葉十八　雲かゝる夕の山のせまにかゝる西の空のかたをうくれわたる　院御製

洞戸鳥聲

鳴かすはいつくすみてふかゝらん鳥のなくるは浅き岩の門　後柏原院

林鳥

かすもなくやしつむ入日のかけをしもうつるなりけり　同

暮林鳥

家集　夕されは竹のはすゑのむら雀なれてもうつるねくらなりけり　信輔

暮鳥宿林

柏　むら鳥のとまりもやかてくらん夕のかけもさすくれのまゝ　長柏家

暮林鳥宿

同　いりあひのこゑも世をさくる山の端やしはしといそく夕暮の空　同

雲　花さき木すゑにかへるねの一枝もたのむとりの夕あらしかな　直き

永百九十二 とのゝえと笑りをあれや蘆海に木葉さけさを名れ分茶て　道之院

同 如意ける林乃ありを二夕よに拂りハ秋し之夜ぬるなん　同

られぬとそ秋らを名れ木の枝ハゆきうすてまかと見え　同

永百六八 いかなるもりと見しむしる名れ秋らは已木やかなん　政為

むとはまハ秋らう岩あきり村鳥乃すみ見む雲の林よ　宗清

蒼 おち花ハとちら花色ぬ夕雲のたやしやなとりかくす哉　為廣

拂り根りを有そり夕かしうすおかし林乃つきをつくさて　源経

蘆かり沢色やんしくんむしる名れと見りとり木のやまえハ　政為

かこ波よふ木乃下やこふ風立て秋らう乃名ハよく色も深　為孝

濱邊鳥

河鳥

河邊鳥

玉吟上 山川のおく井にかよふかよふ名残のたひまとのこる　家隆

家集 大井川おりたる鶴は河竹を浅瀬と思ひて渡るかちには　隆祐

同 此世まハよしとしすみける川をたえすたてゝ鳥の名も哉　同

雑九八

海路鳥

江口鳥

鶴

柏 くもゐこそとまるたつさいもみる川名と松のちよにかへて　後柏原院

拾遺 雑上 をくれゐて鳴なるよりは蘆鶴のなとてよはひをゆつらさりけん　小野宮太政大臣

新千 賀下 君か世のちとせと知れる鶴よりも雲井に遊ふ蘆鶴の声　為氏 兵部卿

新拾 十九 ちくひさしく栄えとそきく小松原で千代よ浪にかけ乃一声　月花門院

堀川院 百首 住けるをは宿ふへは鶴そハたゝつりそろむちとそ近　公実

同 沢かへるこゑの手をかりに鳴くる間ハ数もなもそまやふらん　匡房

つるて河あかれ小ゆや入らん難波の田鶴の浦渡りする　国信

難波しゝ田鶴の声あかされやこのうみの淡路の渡りゆかん　師頼

浦風は浪たかしむしかる鳥毛をとゝて河ちすさは　顕季

友まとをまよひきすきゝれく浜の鶴ハ首ねをとみれのまゝ　仲実朝臣

細引ちらこの渡へまきかれてあさひのよ田鶴へ出て　俊頼朝臣

さ見ゆかのゝ光まむれあろ河まれハ千よ越けて行かふさま　師時朝臣

鶴さへやけさうらくほしかん田の面のそれにむれ鳴　光仲朝臣

代々ふし露のおく数つさほしよそにきこえぬ歎となりけり　隆保

君か代のかかり井の浦よむれ鶴はこゝもみな千年の数かりけり　肥後

大の原雲の上ふまふ露をふりうちえんつよふひ(かなひ)　紀伊

ちよせみかの河のむれかたひとかゝ流の音そのとかふかう気　河内

山頭露　巳上月　夫木集

松の葉はきゝのふいこのちらちはき千代ん程は君うみなき　行宗

晴天露

暁更鶴　拾玉集

天つや浅きさやともみ込りつきゝ雲井に到る一声乃籠数　後柏原院

夜鶴

露の同はとのうを永まさて千鶴ます露は代のやきの数

鶴声近

雲居鶴

沢露

沢畔鶴　千載

とのう声鶴天は夜まて寒えなきて沢への声そよふなき成　師兼

鶴鳴皐　詞花十

ゆふしほに雲ゐに声て立鶴の沢辺にあそや井かなかりん　前大僧都

代数とや見けり声らしい沢かけと見ゐる数すい雲にふ鳴る　後柏原院

夜露鳴皐

芦田露のひまかゝしふそやまき沢田も汁立ちりなく　逍遥院

鶴帰皐

月よなく雲井のけふ数えりさうてよりの影やはひき　政為

池上露　碧　二階堂　散木集

池水にはなやひえてかりうそ波のちるも三ひきるふ

江上見鶴　同

芦へふろうきなる岩根の池かれは流よや千代の数よ立ん

磯辺鶴

海辺見露

海辺冬鶴　家集

色かうまれよるなる沢かもかひの流もふる乃数さかつと　隆祐

湖辺鶴

浦露　新拾遺　廿八

わかの浦や雲ゐに友よふけなれて芦間かくれのこゝろも鳴きり　三条実定

浦鶴鳴月　同十九

いふせん我世更なへら見そ色ふかく立つ鳴とみなかのなとと　前中納言雅世

鳴鶴　月

続古今十八　とくみ浪の小篠はおきゐすゝみて声たかく鳴鶴は波立し日を　太上天皇

同　なにはえやしほみちくれは芦まて三鳴かれたる音そのこゑそなく　従二位成実

玉葉　芦原の鳴音もさらにかなしく流すらん月のかゝれる松の鶴　源俊平

新千十六　白妙の鶴の毛衣きてみれは田面の鶴の波にかはらぬ　山階入道前左大臣

同賀　何すれは田面の鶴の夕暮に千とせをちきりて月にや鳴らん　前大納言為家

新続古十六　ありかほに鳴ける鶴のなく声を鳴きてもとの田鶴の白妙　祝部成顕

続古冬　おきつ洲の鶴の志ほ風にさむけくも霜おく浦の鶴の毛衣　前大納言資季

宝治百首　まくらの海のしほみちくれはむらさきの月にてらせし鶴のかよひ路　寂性

同　芦田鶴の声もさやかにきこゆるは波のたち居に影そかゝりて　為継朝臣

洲鶴

続草庵雑　夕しほのよするつるの鳴はまの浪のよるさへ鳴けくらん　頓阿

百首永和二　霜もおきまよふ汀にかさなれる鶴の毛衣　道意

鶴立洲

古今十七　あしたつの立る川辺をふく風によせてかへらぬ浪かとそ見る　貫之

新千十六　山ふかくかりねする夜はあさからて鶴のたてる川辺をとへやらん　坂上是則

拾　菖蒲して…鶴の立る…のさやけき　従柏原…

暮鶴立洲

同　なるこゑはすみの江の芦辺に鳴鶴のこゑかすかなる浦のしほ風　道意

同　夕しほに群をはなれて鶴の霜よもすからひとつ鳴らん　同

いくよまて月の光をみかけとにちらぬ霜の毛衣　公條

よるひとり鳴はちきりてやすらはん汀の波によせられて露ひとつ　政為

夕□鶴鳴

田家□鶴

庭鶴

庭上鶴

鶴庭上来

庭上鶴馴

新拾賀七　夕まくれ雲かくれてや庭に来てかへるつくる千代の諸声　内大臣

延文四百九　君しきれ庭のむれつゝ鳴く鶴の声も千とせをちきるめり　御製

同　君か代はちよとかさねて百敷の砌にたてる鶴の毛衣　為明

同　川竹のおひそふ枝のゆくすゑも千世とぞ鶴の諸声　為重

同　今日こそは雲井の庭に来て沢への田鶴も万代や鳴ん　実継

嘉元百首長治元五　庭の面になれたる芦たつは人も君にあひみるへし　女房

同　千とせふるやとのみきりのたかさこの田鶴はまれなる代　同

鶴馴砌

新後拾 賀七 よろづ代のためしにちかく住なるゝや千年の鶴も馴てあそばん 後光厳院内大臣

同 末とほき千世のためしや我君になれて砌の田鶴もすむらん 権大納言実秀

同 諸ともに砌のたづもよはひあり松のこゑや万代のこゑ 権大納言実秋

嘉永廿六 三廿八 さゝれ石のこや此山のそれ峡に住てなれぬる友鶴 [illegible]

同 庭の面にみなれし鶴や松ふかき砌によりてなれし千代の友鶴 雅伸

同 千代のかずよむをたのしむ鶴のきて砌になれし松の雨露 雅永

同 君が為千年をまちてなれぬらし砌に遊ぶ田鶴は我友 為定

巳上同 のどかなるはこや乃山にすむ鶴や千代のかずをこととふらん 持和

蒲生会 ひさかたの月をまちて松のおひ立のいさごを宿にかへん 道遥院

三代しや木の葉の夕暮の声をみてもそのら白露 [illegible]

葦間鶴

鶴宿松樹

落花松上風

鶴宿松

鶴多近松

ちぎる夜の君がたれ松風をねまつしもて鶴のなくらん 道[illegible]

鶴齢譲君

今よりは千代を数へてさかえ行君をぞ祝ふ鶴の毛衣 後京極

仙洞鶴多

拾玉集 そのかみのくもゐの砌やそれならん鶴のなきわたる [illegible] 慈鎮

鶴伴仙齢

同集 松にすむ鶴ののどけき声すなり君にかよふ千年ぞとしるし 順徳院

柳葉三光集 山人のいふてまちけり君が代やさしてもとなし 范宗

柏 仙人の友なる鶴も君が為千代を雲井にたちかへりけり 同

文明十四 御会 すみなれし仙人の住かのちぎる千代の友鶴 女房

同 雲井より鶴の立てそのかげの千代ちぎる友 基経

鶴遐年友

同 千世の数かよふや雲井仙人の住家にはちかくにて 政為

永正七 正九 君が代は雲居はるかにあそぶ鶴の松にむつれし友ならむ 道久

同 仙人の住まほしき鶴やさらにしらん君がよにこそ 宗清

鶴千年友

鶴契齢

全七 子を思ひしやまどの不きはしへのたまつ 関白

鶴老爭齢

新後拾 松の葉の千年をかさねる君が代は何ぞとたのむ鶴のまかせ 基像

対靏争齢

靏有遐齢

続古今 集
万代とねきこしなれハ靏のゐるともかそへつらん 行家

ちとせふる浜しらぬまさこの数よりも君か代はなほ久しかるへき 小輔

我よはひ千とせにもなほかそへてや君か代の数も靏のまもらむ 家中

千とせまつとも年をへはひさしく千かへりの松の下枝にちかき靏のね 同

よつの庭ならしとせぬ雲も靏の君かためにとやいはひそくらん 大宰帥 親王家

かりそめの君か霜のなかきよひの千世のふるすやちよの君か声 太政大臣

むかしより君か心に千とせふる靏の千よ 按察使 実泰

君かよハ靏のけすの毛衣をなほ千代かけて雲井にすむ 民部卿為世

我が千年さへふるすの雲井に君か代になほそかさぬる千代の靏の毛衣 正三位実教

赤き色君かいはひの千とせはひとつも人はなれぬ靏の毛衣 権中納言 為藤

長閑なる空の雲井にすむ友のなかきためしにちかひてかはらぬ 左中将 為教

我か千世のまへにそ見え(?)ここにいく千代の雲井に高き聲の靏の数 左兵衛督

千とせ(?)といはふ雲井にやすらひてなほはしめての靏の数 従三位

君か為このかたへ千とせをなほかさねてへむ靏の毛衣 貞之

雪 文永三

胆 六八

靏契遐年

新勅
すむちよの松ハかはらしとおもふより千とせもひさしき靏の声 為家

君かよはひもとの千とせかすかなる雲井の靏の万代の声 宣親

いくよとも限らぬ松の下枝にも雲ゐにちかき靏そなれにし 大炊御門 右大臣

ゆくすゑの空にしられて靏のまてすまてとやせん 前関白

久方の天とふ靏の千代をへし千代の数かそへむ 関白左大臣

若白靏ハ千代ふまてにいはふ君か代はふる 宮内卿 永範

同
松かえの君のためしそよくひさしき千代の靏 俊成

風雅 集
きえつかの松の緑の千世の数とも君か代の靏 俊成

数本集
ひさかたの靏のむしろをかさぬる千代の声 親季

長秋
我もよはひの空に千代をかさねる靏の数 範宗

靏寿千年

堀河院 集
ゆく末をかそへてこそしるけれ千代の君か代の毛衣 清輔

家集
君か代を思ふに千とせの靏のなくへし 後浦

靏舞千年樹

雲
ちよふるかたの松のこすゑにかはりなきあるとし靏の毛衣 通光

名所靏

新後拾 十九
とよのあかりてなほまた友のたもとにあかすうらなきそよみ 清輔

雁
鴻雁
原雁
雲上雁
鵜尾
鶏
鶏告暁
鶏唱告暁
鶏告暁天
暁天鶏
暁天聞鶏
暁鶏

明日香井集上　ちしほそめくもゐのかりかねもうらしく原の沼田によるかりかね　雅経

千首　ちしほのまよひ雲井のたえまに雲井をまちて鳴雁かねの行ちかふらん　師兼

明日香井集七　十寸かくえうかりをおしねらのさ雲上の月にさへやかけるらん　雅経

新六帖　ぬきとめぬ秋の先一しきりかすみて夕ぐれの空に鳴雁　信実朝臣

同　いろは鳥のたかはしいかりたちのまたゆきかふも雁の旅ねは　正三位知家

同　あけのおくるほとのあさきりかれてさかへのぬぬ年のかよふ　為家

雅文八

玉葉雑二　のよはとに八声しれたる鳥もかへる程の見ゆるは鳴らし　長俊卿女　戸部

新拾十九　あまをよせしかまたなれは夜ゐはまかなかきかすのかりかね　後鳥羽院

新後拾十六　一こゑは夜ふかくそきけ八声にもみやこをいそくやまさと鳴　宝篋院　権大夫

同　ほのかなる鳥をもうちてあかつきのさきそめしより八声の鳥　西園寺　前内大臣

新拾遺十九　八しほのもちの月とも弥生のとりのなく八声の鳥　常磐井入道　前太政大臣

同　今ともなきかとちの声とりあかつきをたくとなりぬる八声と　今出川　前内大臣

延文百首　とりのねをかけてしくる月みさのさきの眠のよる鳥とて　大宮

同　夜ふかしの月まち出て白妙の夕つけとりも何やらん　為明

己上同　まちてきく夕付とりの鳴声社時よりの夜の八声とそなれ　為定

かきりあきを老の夜のよるなきの八声はしはらくせよとも　為乃女

あかつき秋は夕の歌を含すとのこゑをはてつきる夜もなく　民部卿

おきつ鶏の八声ことらく成ねとやかへる人はあかつきのつて鳴　実夏

秋とのこゑ花の八声もてむしさは鶏ても見え初音とそきく　空静

よとあさ見て枕よりもつかみ声のみは八声よりしらる　兼光卿

かかつくま流さすれはいつかやさしき八声まてをやなるは鳴らん　左兵衛督

暁更鶏

関鶏

関路鶏

新後撰　今もなほ人てにやらく暁とこそへや鳥のかとくらすらん　権中納言時光

宗尊親王　ひとしきりまた夕つけ鳥の名のみして鳴くとかすかにいつはらん　為相

同　汲みすてて鶏のはわれ鳥の声もまつ程くる恨初きん　実雅

秋たにもくらはれぬしとこよ夕付鳥を初音鳴なれ　行家朝臣

今はとて関の戸ならぬ鳥の声にやうて鶏上秋の夜人　禅伝

名残りと渋夕つけ鳥にやさしぬきと我よ此明ぬかの夜さもなし　忠定

老の身は八声の鳥も別れときくのねやの人き　成実

已上同　旅人のわかれきいかく関の戸の名の早まりや聞けり　為氏朝臣

雪　ゆ山やとめこし流く名の鳥は越ゆる道の先かな　道光

昭日香井集上　あふ坂の関まへ名はなく声や鳥羽の山の明かかのくを

家集　ちりきて流るりもはと告ぐる関の戸ならぬ夕　大家

続古今　関の声も明くしたゆく秋ならぬと鳴く声は空しき夜かな　心田法師

千首　わさるや夕川も鳥の初声よこの秋ねかといかく緒ひと　師兼

開始聞鶏

鶏鳴客路

水辺聞鶏

社頭鶏

社鶏声

隣里鶏

遠村鶏

隣家鶏

旅宿鶏

遠宿鶏

渡客鶏

社頭鳥

鳥の鳴くあけぬよいさし関の戸のひらくるとなくまもなかなん　上御製

後撰六　老いぬ身を稀なると初やまや里の里につき渡る人　雅世

続撰吟三　鳥のこゑあけるとともの夜や関の戸ならぬ夜さふ　直泰

百首　たとりぬるともも鳥に稀覚して夜の夜ふかさてまつか　清澄

やよいかに夜もさらにあまの声とかふの稀覚やなにとめん　宗清

都鳥

拾遺 雑七

都とり何かしこみんなにしあらはいつかかへらんすみたかきうれ 太上天皇

あはれにしこれやむかしの都とり今もありける河は流れて

識鳥

吹風をのとけき君か宮居にも鳩の声しつゝやとかはし 中務卿

鳩

古畑のそはの立木にゐる鳩の友よふ声のすこき夕暮 西行

竹裏雀

岩清水おひたゝしたる松はあれはいく千年の坂も君かゆくほし 雅世

拘

ひとつ竹林の鳩のなき出る竹の末に声をきく 藤原為家

鴫

汀鴫

鴫浮水

吹ゆる江の浪やまちやらん立もたゝぬ鴫の浮ふらん

楊

鷺

玉葉 雑三

風雅 十六

田面よりやまかけてゆく鷺のをしとみれはそなたかくるゝ

山本の田面より立しらさきの行方みれは森の一むら

松の葉もしくれにけりな夕暮の森のあなたにたちし鷺の一村 雅世

白鷺飛

雨中鷺

江辺鷺

江雨鷺飛

すみよしの一葉の舟なれや夕浪かゝる江を渡る白鷺 右衛門督

煙たつ夕まの芦の浦つたひ見る鷺の入江の山もとをかほし 日

雨ふれは鷺のこゑも見えしよ江のまとをき葦も絶えきゝせぬや 後土御門院

入江まの鷺のまつ毛をとかれ芦のまとの鷺のたちそめ 政為

打入りし江の松よりをかしや雨にてもきこえぬ鷺の白雪 道盛

白鷺立江

河鷺

千首

山川の浅瀬にたちて鷺のこゑ毛もあはれなる夕暮の雨 師兼

河辺鷺

白鷺立河

汀鷺

拾玉

と?えのれ宮居の川瀬の鶴の毛にまきれて鷺立めり 逍遥

白鷺立汀

明日香井集上

ちりひとつ浜のおもやこの夕されとさきの鷺の立見えぬかな

洲鷺

白鷺立洲

暮過鶯 / あつ鶯

源大府卿集　[illegible]

竹斎

[illegible]

獣

秋田

[illegible]

原獣

同

[illegible]

虎 / 熊 / 馬 / 野馬

年中行事歌合

[illegible]

由吉

[illegible]

兆廣

[illegible]

兆的

[illegible]

牧馬 / 野る夜鹿

[illegible]

雅蛙

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

生牛

[illegible]

兆地

犬 / 猪 / 羊 / 猿

[illegible]

兆仲

[illegible]

仲実朝臣

[illegible]

信永

[illegible]

忠房

[illegible]

兼昌

故山猿 / 古山叫猿

已上同

[illegible]

常陸

[illegible]

大進

猿叫山峡　古今十九
まひしらにましらな鳴そ足引乃山のかひあるけふにやはあらぬ　躬恒

峡猿　宮内卿百首 集上
わくたてし峯のかけはしおりたちてましらはましらなくなり　兼好

猿叫峡　同
ましらなく山下風に立のほるかせいとゝ月もこゝろや

暁猿叫峡
ましらなく五月乃月はなかめけり夜ふかきにまたすゝつ　頓阿

老樹猿　同
夜あけ方ましらの声も鳴なり　後柏原

嶺林猿叫
見ゆるをあはれとも思ひけり山風に嶺のましらも鳴なり　道堯

猿さけふましらの声もさひしさに　同

みねたかきにしたもみちのおのれましらや鳴なり　政為

かきねの庭にましらなく山ゝに　同

樹頭猿
木かけの木の葉なりましらのこゑそさひしき　頓阿

梢猿　寛正四
猿も木末を渡る山風はとても吹らむ三叫　雅親

雑 九十八

十

蜘蛛　草庵集
月にすむ影のかけにかゝるさゝかにの　兼好

竹門法楽 ゆふくれ
ゆふくれにかかるくものいとなれや　伴長

同
さゝかにの糸のしらつゆ　後柏原

我かよひし人のおもかけ　忠房

かきなれし　良昌

たちよりし　常縁

上旨
なにはかくいとも我身にも　大臣

蝸牛

亀　新六帖
かめのすむ田中のみつのなかれきて亀の鳴なり　為家

池亀

泳上亀

淵亀
竹河の下ちかき八百代のこゝろはしめにたゝ亀さへそやすら　雅世

亀万年友

永正二 千首　万代をともにちきりしねたまはるへしか君か人のゝ大和ことのは　後柏原院

きみかよにいまこそあへれこのときにとはにかはらぬ亀のよはひを　逍遥院

とのことしきみかみよにもかめもまたよろつ代ふるへきたまの万代のちる　貞敦

あひおひて千世をかさねてたのしきを亀もなとひかけて君か万代の為　実隆

對亀争齢

ちきりをくやまかけの世ゝよもひさかたのあまのとかめのとを心ある　肖柏

貝

拾貝

律調

酒

薬

書

文書

文間

わかひろふいりえの浪のうつせかひむなしきからに君をこそ思へ　内藤

ゆふまくれいそのなみにはうちよせてはかなくもみしさきの浦人　頓阿

入日さす松の木かけにゆふなきてみきはにまつかすむの里人　読人不知

まつかけにうちよせてくちはてしかはをしほの宿のあまのとまやも

傍んせてあはれゆかしといかなるやしほの玉はた　院御製

とかすみのうらにもとれとかくれなきいそのかれてのちのよの影をかけや

九がはりてもしるらんとものこるのむかしの床のあはれをわかれ　中務卿

【龍 七八】

【十一】

扇

絵

硯

筆

太刀

刀

弓

箭

沓

勝負行

杖

同

順徳院御集　秋はたゝ人の心をなくさめしこともなくけふしく大和ことの葉　前大納言為家

阿波にしも秋のかすかにしてはかなき千代かそへむかしの人のことの葉

摘　あすからをまちわひしにあかねやまけふの夕の数ぞなき　読人不知

玉葉十六　何しとも思ひきるらんしきしまの道をこそのみよとりかへや　為氏

摘　めくるらん身のうちのとりかさねつれなきやとはもれにしも花　従二位家隆

行末のはかりしられぬそのきはまたうきよをかへしとらんかたのこ　非世

摘　わかそのやいかにしてのことのはを後の世にやつたへおかまし　読人不知

さ　まへのまつにもちりはしめて千代をかさねぬ人の心のきえてこそ　和泉式部

すこしもこのわかれをいかにとてこそいはしたにもなみたこそそへけれ　読人不知

蹴鞠

人ことに立はる花を庭まて見わかく行方ゝきはいとゝえ　敦隆

散ものをおしひし花と見くれハ庭つとも松よりつけける　為盛

山里乃木乃下草乃えかくちらねハ見るかけ人のまつこそきつ　為経

囲碁

四百番哥 集上　立まかひ秋乃かれハ木乃しけとふさそも待せぬ乃やとまりけれ　七本

山人乃をのゝえ朽し立まかくなすしわさもやゝあそひけん　為書

かちとけるよみとう乃後のいかされとふかき源を知さるらん　為隆

いふしては何まとしも見さみくされは打ちひ乱れこらうをとしらん

双六

千五百番 集上　まとしおし瘦し身の涙の音も白き子くて次く渡乃ま猿　非証

唐衣

同　十のまも見乃石の可すくよしすくろくのとさこえあり　同

笙

千五百番 集上　世中ハさきハ我涙かきうし我身ふしをとせすきあん　同

管絃

和琴

仁和集　笛乃音をなれ乃風よ吹まそへて治まる世のなるをつくる　順徳院

箏

堀河 次郎百首　みな人の引くてや調けし秋風吹けれハ弟子もえむれ　顕仲

同　千歳よする人の琴の緒を弾しきかまとふひきつる　仲実朝臣

箏の音に枝よむせふ夕くれハ花もほ立ねり乃声さゝよ　俊頼

我乃孫ハえしもとねふる人とまきおとをおまつ活弟子うき　忠房

おかへてめ乃音高く成ぬらし調かうしと八枝おくあり　兼昌

くらへしむうのとと引りきて調かうかくしてかなりれ　常陸

琴調

巳上同　松風乃吹よかよひて引く琴の音ハ秋乃ちよしくの岑まてえむかに　大弐

松風調琴

四百番哥 集上　夕されハ松も千年の琴の音に吹きまさくいく松の秋風　雅有

さこすきこし音と来るむ琴の音かとハいへ八庭の松風

篳篥

堀河院 次郎百首　篳篥の音は人月やてる渡る今宵ありすしのなく　顕仲

同　次きたる篳乃声し乃数きとは胸にちりまとはしこう　仲実朝臣

吹竹を雲乃うへ人吹たてく其乃うくひとちいつゝきこ　俊頼朝臣

おいりや宿よ渡り一声きれハ篳乃音もきとめうこゝう　忠房

笛音
隣笛吹月
行旅吹笛
山村笛
鼓
金
寳
三種宝物
玉
鏡

曾丹集上

涼しさにすへてうき世のわけしかはあかぬ夜風の声 兼昌

山の里は神楽やすらん笛竹の小夜ふけかたに聞えくる哉 常陸

忘れ行人をねしまても笛竹のよるへもなくて雲にこそまて 大弐

とくふけよ夜の笛はさえて吹なるはぬものしたゆへ

笛の音はちとせをさしたる流よりもれぬ里はあらしね 源俊頼

古今 夫

神代よりたてそめにし宝てまもりてそ君か家にもえしとそ聞 従二位家隆

玉 もろつなとまやすらん月よりの浦わつりひとかたに君まします 平泰時

かもりふ方とこそ秋にしかの浦にかちも持や頼家 俊成

倭鐘
枕
枕塵
薦
簾
櫛
鬘
釜箸
火田
香
反魂香
柳
春折

曾丹集上

鐘の音とたゆむ秋のよるのかすもみえぬ身の影もなくて

曾丹集上

夜里とあれの夜や妻戀の枕のちりをとらん塵山風

ふかきてうたつの世の夢さしのまし枕のちりの夢をとけれ 雅経

新六帖

たき物の烟の下にせひ我物とや身をこそれん 為家

新後拾

反ても煙とそとも世河のたて煙の内まきしかの雨なけ 従二位行家

新六帖

百敷やむかしのまつて摘をするのかやりてもれすもあまね 為家

衣 暁更衣 裳 襟 袋 紐 帯 玉帯 綿 布 曝布 綾 錦 糸

文亀二 十二 [illegible] 逍遥[illegible]

[illegible] [illegible] 顕隆[illegible]

新六帖 [illegible] 為家

同 [illegible] 同

宝治百首 集下 [illegible] 知家

新六帖 [illegible]

同 [illegible] 為教

[illegible] [illegible]

[illegible] [illegible]

新六帖 [illegible] 為家

同 [illegible] 同

杼 機 竹 車 小車 水車 樋 舟 筏 櫂 碇 縄 綱 引綱

同 [illegible] 同

新千 [illegible] 力車 [illegible]

宝治百首 集上 [illegible] 我身 [illegible]

[illegible] [illegible] 浮世 [illegible]

新六帖 [illegible] 浮世 [illegible] 為家

[illegible] [illegible]

宝治百首 集上 [illegible]

黍粱
粟
苧麻
鐘
暁鐘
暁雲鐘
暁天夕鐘
暁鐘声幽
晩鐘
晩鐘声
晩鐘何方
夕鐘

摘 せきもる田上川のあじろ[illegible]をうける 為家

家集 月おくる山のはふかき鐘の音につきぬる世の夢やさめなん 為家

新拾十六 きてかへる[illegible]鐘のこゑ[illegible]暁[illegible]けり 内大臣

拾 かぎりあるよはの[illegible]鐘の音[illegible]いかがせん 後拾遺

同十六 [illegible]鐘の音[illegible]夕暮[illegible]松の[illegible] 伏見院

同 [illegible]ひとつの[illegible]鐘の[illegible] 同

同 [illegible]夕ぐれ[illegible]入相の[illegible] 同

隔叢鐘
隔叢遠鐘
霜鐘
遠鐘幽
鐘声幽
鐘声何方
山晩鐘
暮山鐘
暮山鐘遠
野亭鐘
野亭聞鐘
関路夕鐘

同 [illegible]日は入相の[illegible] 崇光院

昭訓門院春日社歌合 集上 [illegible]霜[illegible]鐘の[illegible] 入道二品親王

新勅 [illegible]鐘の声[illegible] 後柏原院

同 里[illegible]鐘[illegible] 同

拾 [illegible]の声[illegible] 後柏原院

拾玉一 [illegible]鐘の[illegible] 慈鎮

寝覚灯

灯　風十六　なかひはてもむよ時ハ猶も一とともあし我のうへや乃灯　従一位為家

くれ竹乃夜すかき床よ寝覚して見かとつる窓のほとり火　雅有

ぬかき夜ハ月もまけ世ハたのつらくむきね寝覚るこゝ火　雅世

雨中燈

玉葉 秋二　雨の音にさめて窓ハ小夜更てねられぬよ寝覚の灯のかき　院御製

同　めうこゑの雨夜の袖や生つゝまて住つかたつ比灯の末　従二位為子

風雅集　雲かつてもみしそふ雨よ寝ぬまゝあかぬ夜は次の灯　順徳院

夜燈

玉葉 秋二　宿ハあれて人のおひすくる風よすむそかすら袖や乃灯　藤原為親 上世

同　おしう見乃むらうさひしき寂乃間よさ秋も更ぬ行かの灯　従二位季

同　消かく見えゆよ窓灯の又寝覚えてもあすらしかけ行ぐ　院

風十六　あつれ老月よそむろう灯乃の色とくハあらしに我世又めら　前参議

新拾遺 秋　かきてても光やうすくぬとかおりよハ清の宮乃灯　権大納言

続拾　ぶかき夜のやさもちかせよ行のとてさゆけ乃ともし火　後嵯峨院

宝治百首　秋乃よも夜やいつともかく我ぞかりやいれかある窓乃ともし火　資季

同　よう紀より夢のはてもの寝覚よハあつらしけり窓乃もと火　有

養やるてまつ灯うちいうかゆくれ日影をとらかよなすうひかき　定嗣

かれ日ほとハ我身のかきそう夜しまる人光よ八夜やくれ灯　師継

なかき秋乃夜とく夜の影みてあらりそうすれ窓乃灯　為氏朝臣

延文百首　あふみて見新くハ志てゝ行くよ我いく秋かさつ窓の燈　尺空

同　光つ世ハむつしすゝ行きてとか窓のもし火　為明

同　とのけうかきは行くさぬ灯の影も更ぬしらめの秋まかに　為遠

同　ふさよけの我ゆとおれあ夢のきぬつき影よ夜もや　空静

同　いつしふおらむきてつえん灯の影さ窓のさよ風　後柏原院

同　怖つをゆくるのてを影あらんむまふしき窓のともし火　同

深夜灯
夜燈思花
暁燈欲消
暁更冬燈

拾　きえやりてかつまゆの光く燈ハ寒夜のかねとおもひてくるく　兼好

秋燈欲暁　摘　かゝけても光さためぬ夜もすからふけゆくまゝのねやの灯　師兼

雨中燈　新勅 十七　あまのとくたつ夜の風にさそはれてむらさめすくる窓の灯　前大納言為家

同　続後撰 十七　ともし火の影も絶々窓の外におとすなりける秋の夜の雨　従三位範宗

同　玉 十五　うちはらふ袖より外のさひしさに雨をきくらん窓の灯　法印定円

同　為尹千首　ふけゆくまゝのよはの灯　[illegible]

窓燈

昔香井集上　さえ〳〵て秋の夜しつかなるに我心をけつ窓のともし火　従二位家隆

窓灯欲消　続拾上　人もねぬ夜よりかくしつかなる窓の灯　家隆

窓灯欲尽　風雅八九　うき世にはへむものとも思はぬ灯の影しつかなる窓のともし火　兼世

独對孤燈坐　かゝけえぬ我よりいまはなれの影もくらく残り火の窓のともし火　道遥院

ふけぬるか今はかきもつくさしや此世のうさをたれにしらせん　同

またさへて我世のはてやもとすらん中ものおもへん窓の灯　後柏原院

すゝしくてなかき夜をまてしのふともおもひはてぬ窓の灯　政経

消えぬ秋もはやしつかに残る火のいつまてと宿かりて窓の火　後柏原院

江

後川院次郎百首　おそくやつきてさそはれてかくしつる浦舟のさす棹さえてゆくらん　藤仲正

同　くもゐよりゆく舟の浦舟のをさす潮にのりゆくらん　仲実朝臣

あさりする海人の網代にかゝりつゝ浦の舟にたゝよひわたる夕暮の日　後京極摂政

あさ川の浪にうきねの舟をさしてくるゝ浦わのなかれ行　忠房

かは瀬やなりゆく舟とゝもにゆく夜半の波の音さゆる橋　慈円

もろともにあはれとおもふ浦の舟のつなてもさそくらん　常陸

已上同　ふなやかたさかしまのうらの舟の沖つ波まてもおもひあかしつ我身成けり　大弐

玉吟下　こゝろなき浦の舟ひとつ見えて空にまかふ海やすみけん　家隆

艤舟

舟路

舟旅泊

遍舟夢旅

千首　あしの屋の夕かけに雲のたえまに舟そ見えゆく海人　師兼

打舟夜已深　摘　もろ波のおのかゝよふかたのよるの舟ちかくなるまゝ　[illegible]

釣舟

江上舟
江引舟
河舟
河上舟
湊舟
海路舟
湖上舟
湖水舟
舟浮湖
浦舟

玉葉十五　みな神もとよしさかれハ舟くらふ浪たちて〻す渡る河舟　後宇多院

新千十八　かり衣一聲からとも川舟付今すくハきてやくらふん　前大納言実家

玉十五　かちをとに波のうへにも年ハぬわまかせてせる浦のさとて舟　常盤井入道前太政大臣

風十七　和かの浦よりこき出る波のまよふ舟ちとりかさなる跡ぞ忘れぬ　前大納言為家

宝治百首　流舟ぬ浦の船出すくとをとけりゆく沖のとも舟　為氏

同　船出よ浦つたひいさり海人小舟いきくつけしてとほつかん　卿

吉野つ浦ちるかなひ舟の風よ浪路る船うけかみき　小宰相

沼舟
波舟
白浪舟
岸就待舟
水口舟
舟色芦名
舟過芦洲
舟中夜景
遠浦帰帆
遠帆連浪

巴青　あさかの浦ちるか成よきりかしくさきしおきつ舟人　為顕
浦かくれ舟よりもきつ〻ぬはま舟浮ぶ往やかう〻　為氏

いかならん舟かもいうく岸のいさよひ入ぞくり夢のかと　後柏原院
はし浪と舟浪か〻れ川風はきしうつ浪と袖のかくる色　同

ゆくまハ又見るや沖は舟波のい〻ま〻やふるまさて　後柏原院
とひそうしゆかりつ〻沖は舟らかめやを見けらしまだ　兼載

海筏

松川筏

河筏多

釣魚

釣舟

漁舟火

漁舟連浪

雪玉集上

めつらしとつゝ浪はて漕いでしかくれ舟ハ流もさ添ふて　道光院

あさいさの浪の波ちとつらてもとゆやむのまのなかに　柳経

かこつ波も立ちよ山の根おろしに霞は成田ちに浦舟　為廣

さらにおのいく浦舟の私さのえとして立ち荒く波のやまの　為季

松川なおしく流いるくあれもねまをいさ志ら浪のうきせしけり　非世

流とらやをたゝむいる人たつれはかなれをいふかわかに松影　非世

新拾 巳十七

さのまくらにさ海の光く影ん寄りつきをのなほ何をうらみさ見をと　前大僧正慈鎮

千載

夜ぶかくとめしてもまかれいせの海は舟漕ぐまつるあまの釣舟　権中納言俊忠

雪玉集上

伊せおふさ浦の海く舟ら衣あらき浪りすのはまなくさかくさ見ゆ　非世

よひちと吹きわたりもれ行のゝ海士の舟乃いさりたく火のかけ　道光院

雲

浦の秋の芦やの沖乃わまの舟やくするよりもよはくかの末　後柏原院

拘

さ河りをはつる波まつむたえて丸せまくつる舟流すしと

同

波の上よ釣する紅とふ舟のさかふ浦くまいやこる見ん　広

雪

とれしとあるもはる浪の上まゆきさのなほ吹くさ舟　道光院

同

ちゝ松乃釣まとも山の阿しかく浦流をとつる寺　同

碧

あれもる未ハ千里乃わ浦わ舟まかわる尺の波のうへかれ　為修

釣くりいうくとさる浪乃上まはりもる舟れ枕りきのれ　柳経

かもうよくたるもわる氷いさつ寒さきたる船乃あらむ火　為孝

とれしれなやとひてわまか舟波よ一乃波の沖の浪の沫内く　政為

拾玉一

浦まとて沖乃浪り舟のれしより鳴石乃浦の夕れあわやの　慈鎮

雪

わまか舟枕のよりしあけのくし網の波よ志ふしむ雲か那　道光院

雪日香井集中

つれなく浦波漁の末のうすくふしに私の行きはまれ給へる舟　安成

正治二十一分合

暮かく浦鳴石の浦のかうかまた志るよりいちくわまれ釣舟　家長

同

夕舟とをのるあまちつてはひ絶て暮りいつわまれりか火　後柏原院

次志のる乃の末かとへはつくたくほをまえ（かきて芦乃村立

遥見漁舟

暁見漁舟

暮漁舟

夜隔漁火

国立公文書館
National Archives of Japan

たつさする海辺もわしかの空のむかへかへくこえぬ越さ明かの浦すこ　逍遥院
四長鳴のあく声のまことさいはう大かたハ我いさりやらんえたる沙　政為
志か風は入江の芦のむれ立ハふくれはみつれて志めなりいさり火の影　為広
いさりさく影すみすまたうつらひとそや入江の芦乃すゑ浦しまそん　為孝
いさり火の秋ち渡ハ浪まよりむれ　藤のすゑ我ふる浦よりの吹は　雅綱

漁火連浜

晩望

千首　志ほの浦やわまよみ綱手をもてよる波とやくかうち炎乎　師兼
千載十六　難波かた塩路はるかにみわたせは霞にうかふ沖のつり舟　円玄法師
同　夕霞緑のすゑにきえつゝはつ波のくもるなみぬも引代　藤原季経
新古今　若の浦と伝ひて越まよふとれハ末まよ沖のまりつり舟　寂蓮法師
新勅十七　百敷のこのへを出るともいてくハまくらねむり山の端の月　権中納言定家
同十九　和田乃原波とひとつに見る海ハ奥の東ハ山乃をちは　入道前太政大臣
続古十八　恨わひぬしまぬ浦の波まより出てはさりのあまの釣舟　前大僧正隆弁
同十六　和田の原波にしつみひとつにて入日をうつる山の端もなし　権中納言定頼
同　浦かけて夜山ちかハくれかゝて入日のこれる二條乃松かけ　前大納言隆経

新千五　立のほる煙ハ波にまかへて浦にさとしかるらむ塩やかま　入道前関白太政大臣
同十七　若代の松の波の松のすゑよりゆふ日かけてゆふ塩やま　実兼
新拾遺　松浦しかの塩のかけてえん塩せに浦すゝ八重の末の白雲　御製
新続古　入日さす志賀の浦の浪よせて浦のかけ　新名院入道内大臣
同十九　綱やるもしそらいつも松まつをとに山まし　法師光
新千載　うきしや沖は浦にそひつゝ雲井につくやくの白波　為世卿
同　ちかくとなかむ浦の霞かこえ波とのそまちろれを　前大政大臣実氏
同　山あさの中をとらぬ里みなかすして出えて立煙　前大僧正賢俊
御室五十首　夕けつくほのまにかやかすむ浦のくもかすまて入ぬる　公経
同　難波かた五十の鳴のきさむとこゆる八つなのまつの松　慈鎮
同　みつのうらのたそかれのかほにかすむ松の春の夕暮　定家
同　和田の原こきいてゝ見れハ久方の雲井もなみのうちに入けり　家隆
同　山の入ぬるのかすみてかくれハ八重の雲のいかに　隆信
同　いつしかと夕暮まつのしもたえぬまにかゝる寂蓮まて　寂蓮

同　はるゝれば山もみえけり和田の原雲より沖のきはゝかはりて　光廣
同　しら山やたえぬ浪路をこえてしもきくと海と思へそかくれ行　伯巖
同　淡路しの島山かけて見わたせは浦の明かたの空　同
玉吟上　朝日さす木のまの山の嵐つゝき衣の人は雲もかゝらず
同　山本は霧のしたより流るなり人はしらじな...家
同下　まつしまや浮寝の床ゆ...さわぐなる浦の舟
同　あさむれは磯の洞にかすみつゝゆく舟をまつ海のそこ
同　今日くらせ夕日かゝる住吉の浦まで...わたら宮山
同　あさ見つゝ夕越られは...せ山...の里もふりしときを
同　大淀や雲のそこにて...
同　よる舟の...月のさかくる方は...
同　奈ごの...浪のしたの...雲　隆...
玉吟下　かさつゝ...さきにおのこさいつ月を
同上　...雲井...まふ...の川...

同（隆祐朝臣百首）　浪のうへに見えし雲を枝て...やまん人　知家
同　思ふ末はなみのしたにまかせて...となる...　同
同　音羽山夕あらし今すゝは月のさす...浪　光俊
同　今日も...の松やしほ...さる　同
拾葉集　たよ...しもるじき...流る天の...立　為家
書　旅衣しぬ花...海辺...旅衣...流　道家
同　ことより夕日...めぶ...門より　同
同　舟...山ハ...霧　同
湖日（陽明院家）　湖日は磯山雲よりもかゝりて...浦...吹　政吉

明治桃吾
若中桃吾
吉野桃吾
湖桃吾

柏　はるの月...山...おかわり袖ぞ　後指夫
書　ねさの...山...ひかり...のそか　道...

[illegible]眺望

眺望日暮　禅林寺殿七百首　ながめやる[illegible]の夕暮の雲の立つまで　資季

翫夕眺望　陽明家今宮　月ならで[illegible]　政為

山眺望　千首　人やしる[illegible]　師兼

春山眺望　旅人の[illegible]雲　隆祐朝臣

山路眺望

等眺望

楼眺望

郊眺望　[illegible]　宗祇

杜眺望　[illegible]　為広

野眺望　[illegible]

野径眺望

野外眺望　千首　[illegible]　師兼

関眺望　[illegible]　行家

橋眺望　[illegible]

水邊眺望　玉葉 雑一　[illegible]　後伏見院

池眺望　[illegible]　為広

江上眺望

江亭眺望

浦眺望　千首　雲井[illegible]　師兼

海眺望　新後拾遺 十九　[illegible]　前大納言為家

川邊眺望　玉葉　[illegible]　前大納言為氏

湊眺望　新後拾遺 十六　和田の[illegible]白波　冷泉前大納言

海眺望

海上眺望

新後拾 十八　こきいてし日かすもとをく見し波は沖なかそらにうかふはなれつゝ舟　弾正尹忠房親王

同　かすみにも見えしは波のはてもなしつゐにはとほきあまのつり舟　権中納言公雄

宝治百首　うなはらやかすみのそこにはいつくとも見えぬ舟もちかたの　前大納言

同　きえもせぬおきつしほちのなかにしてなかめのかきりはまよふ白雲　基良

新後拾　わたの原やへの塩路をみわたせは雲に波のたつ沖の白雲　従三位為家

　　わかくにをもとめはみなとの海のそこふかき舟のゆく沖の白波　高倉

　　舟ならはいつとかへして海の波よりそらはなかめも見えし　但馬

玉 雑二　夕日さす波の上より立煙いつの浦よりしほやくらん　隆祐

千載 十六　見わたせは海は波の上のかすみてはるかなれはいかに見えしは　後徳大寺左大臣

同　なかめやる山のはもみえすなかめやる沖のはてにそしられける　権大納言実家

同　情ありて波よせくる浜ちかみおきつしほかせ雲井にかすみて見えける　権中納言実宗

同　ちかくともとをくもみえぬ沖にたつ雲のはるかになかめつる舟　大蔵卿行宗

続拾遺　波の上にうかふ木すゑもかすみつゝはるかにみえてあまのつり舟　左京大夫顕輔

新後拾 十八　こきいてゝ見れはたなひく雲のうへにかすむつりふね　皇太后宮大夫俊成

広田歌合　うちよする波のとまりのそこよりも絶えすたちそふかすみなりけり　実綱

同　りほやく煙立のほる雲のはかなきはあまのかりね　安心

同　浪のうへもみえすかすめる沖の波かすみかくれていつちゆくらん　沙弥寂念

同　うちわたす雲井のかなたの波のうへにあまのつり舟　仲綱

広田社歌合　わたつみのとをき方をなかむれは雲かとまかふ沖の白浪　登蓮

同　わたつ海の波にうかへる舟の見えはかなくなりぬ沖のつり舟　師光

同　雲の波まよふしらなみかすみつゝはるかにかへる沖のつり舟　俊恵

和田の原波のよるさへ浦つたひしてなかめつる月もやとらん　頼政

沖つなみ立かへりてもみわたせはかすみのうちにとまる舟かな　頼盛

あまのかる波のこなたに見わたせはかすみてみゆる沖のしらなみ　行綱

なかめやる波のうへにはかすみつゝ沖のあかしもみえしきけり　沙弥道因

かすみしく雲井はるかに舟のこえきこゆるかたの沖のつり舟　懐綱

天津空雲ゐにかすむ海のうへ見えわたりたる沖の白浪　小侍従

ひこの浦の沖のうきもかすみつゝみゆるはてしなき海の白浪　中納言

ねやまをたつやの沖とも舟ぬきわ八幡ぬみくかくろ丸く　乙通

海邊眺望

上同
ひとつさし浦よりとちふさくもゐは八きつゐくやもあまをしる　兼光

来のまり月しほいつかくてさてしやわと浦よりきちゝよ

まくらすすりすれしくや何たん何て右ゆからとゐ泊

新古今 雑中 十九
たえまなくよするそしらやゆん月さら波のたよりの泊舟　具親

同
波の上ようつる夕日の影はあれと遠つ小嶋は色くれにけり　前大納言忠良

同
けふくみえける舟のおもかけや本津小島の波のまよる　従二位家行

同
ねかりつ浦くるまて風さてせちへのあまの漁の友舟　院 釣竿捐

千載 羈旅
そことはるかに沖よりさゝ見る舟の帆のそらより見れは風かうさら　前大納言

続古今
けふかすむ波ちくてさく舟かひもとる見えともまさるり（ノイ）て　平氏村

同
夕されの風あらきやなくさむ世八雲よわかさてうらのなみかぜをさへ八　太上天皇

康永
かさいかけつ沖よりさへしつかし波よ棚引さと雲ぬのも　女房

同
かさつ風も吹つわたる浦よりとらくらの松本　九大ト

夕つくひさ河の波ちハ来るれてきちうれ松乃ゆをうまめり　実叶女

海畔眺望

上同
とちやこしつすかみしね深松乃来すりえ沖の鉤舟　公蔭

きとけり入日ふ波のとからん（？）て志りしいなれね浦のまとう　皇后宮真言

ひとくよ霞らる見れたま来らくてうち霧ちる波乃まきう　従三位一条

松浦しらおきさらうはまれ波乃まよ大わたる根の湊りにまうる　小宰相

あきみうれ松のいゝえよ明けゆ霞たかの浦の沖のむつし沈　弘徽

海路眺望

拾
あまさかりしこ海りやいつこみのもまえともあかり見の浦にまとう　兼光

海つゝみわつかねを浪乃棹とかるらくのはけり日乃（の夕日入りけもなし）ろき　権僧正道

拾
何の見の松のふのるを浪るかりあひちたきをえ海つかれ舟人　師兼

とをつ見やら雲よる舟れ波るかりえ舟の浦れかりくる空を　定家

湖眺望

拾
かつら港の霧よかきらまき秀まは湊れ松よきらか海わかのかれ　基俊

湖水眺望

同吉社歌合 / 日吉社大宮歌合 九月九日
雲ちまかれ春さ浪の松乃ねきさ（コサ）をもし去てさ浦あと　行家

湖上眺望

鳰乃うこやゆくらうみねさ波よへまふうかゞ百秋の釣舟　内大臣

同
鳰乃海のねさめ夕ぐれよそにのみ見てや過なん　定家

同
志かの浦の志つ…花よいのりても数限りなき代の末かな　家隆

同
志賀の浦や遠く行方へ流れて入日うつろふ…白波　知家

同
…せかとやらぬ浪の上遠し月は更行…浦風　…

同
鳰のうらや…沖よ…世の果のなりぬ…　為家

同
やさしつゝ…しゝ…浦風は…なき…たまれつ…　花…

同
志かの浦や夕波白く吹風よ浪のわまれ袖も…　俊平

同
…の…る…てて鳰…浪よ渡つ　康光

家集
ねまさの浦風まく…の…海…　為家

同
…このぬ…を…て夕日の…の浦浪　同

浦眺望
濱眺望
湊眺望
…眺望

雑七八
…
ねぬなんれ…の浦より…　…

三十八

泊眺望
遠つ眺望
水つ眺望
村眺望
里眺望
古寺眺望
山家眺望
山居眺望
田家眺望
旅眺望
野中眺望
名所眺望
雲…眺望
…眺望

家集
…るる山た公の日…　…
浪…の…風と…るる…の浦雲　為家
…よしかさくれ花咲…のもとの…　…
…とも…の…天の…

晴後遠望　後京極小集

こゝろあてに千里の浜も見渡せは秋の日かけにつくし遠(?)

朝遠望　明日香井集中

なかめやる沖津浦山の方も波よりはれてよこ雲そたつ　雅経

落葉[illegible]

山遠[illegible]

海上遠望　詞花

わたの原こき出て見れは久かたの雲井にまかふおきつ白波　関白太政大臣

新拾九

見渡せは八重のしほ路に[illegible]　大炊御門右大臣

同十九

[illegible]　按察使公通

新後拾

わたの原[illegible]　雅有

続千載

[illegible]　行家

江上遠望

夕遠望

海辺遠望　新千

[illegible]　今出河院近衛

海上日遠望

[illegible]　国基

海辺夕遠望　草庵集

[illegible]　頓阿

海路暁望　月清集下

[illegible]　後京極摂政

遠望帆　新拾古十八

[illegible]　従二位家隆

　指

[illegible]　兼好

　書

[illegible]　御製

山居夕望

[illegible]　道堅法師

[illegible]　隆博

国立公文書館
National Archives of Japan